

喜寿談議

還暦・古希そして

文・写真 (株)地域サービス代表取締役

永井 英彰

下関市・角島に古代の祭祀跡

アグリ・フェスに首相が登場

6月26日、山口県長門市「ラポールゆや」で「アグリアートフェスティバル2015」が開かれた。主催者の一員であるジャポニスム振興会から招待を受け、徳島剣山世界農業遺産支援協議会から野田靖之先生、岡部晃司さんと筆者の3名が参加した。

まず、「日本一美しい油谷の棚田創生と若者による農業の未来」についてトークショーが開かれた。首相夫人・安倍昭恵さん、長門市長・大西倉雄さん、おんたちの古民家代表・松浦奈津子さんが出演で、山口県立大学国際文化学部長・水谷由美子教授が司



飛び入りの安倍首相と昭恵夫人



安倍昭恵さんと（パーティ会場で）



東本願寺の皆さん



海岸ぶちの古代祭祀跡（下関市角島）



龍神をまつる（左奥手）

会をされた。2013年に農作業着のファッションショーを開いたのが最初で、昨年からはジャポニスム振興会も参加している。

続いてジャポニスム振興会・大谷祥子さんの箏曲に乗せて、安倍昭恵さんの金子みすゞの詩朗読があった。金子みすゞ（1903〜30年）は長門市の生まれ。「昼のお星は眼にみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ。見えぬものでもあるんだよ（星とたんぽぽ）」など数編は素晴らしかった。次に農ガールコレクション。山口大企画デザイン研究室が新作した農作業用モンペ、モンペ

ツコを、大西市長ら大勢の皆さんが着て舞台に立った。若いタレントの木村優さん、日本ロータ協会会長の青木美沙子さんも特別出演していた。このショーの直前に、安倍晋三首相がサプライズゲストとして登場した。首相のお国入りは昨年8月以来とかで、「妻に言われたから来たのではありません。若い皆さんに関心を持ってもらい、一緒に農業を盛り上げて行こう」と呼びかけていた。

今回の私たちの訪問は11月8日吉野川市鴨島公民館で開催の「吉野川コレクション2015」との協力関係を模

索するのが目的。大谷祥子さんに水谷由美子先生を紹介してもらった。行事の後の食事会ではジャポニスム振興会会長・大谷暢順法主、大谷光輪門主、夫人の新裏方・大谷沙織さんらとゆっくり話ができた。安倍昭恵さんと談笑していたら、聡明な新裏方が「写真を撮っておきましょうか」と気を利かせて、何枚か写しにくれた。

海岸縁に立派な鳥居

翌朝、ホテル楊貴館の主らしき人に教えられて、安倍晋三首相の生家と歴代墓所を回った。生家の付近は水田が広がり、モンペツコが似合いそうな環境だった。墓所は整備されて生花が活けられており、名刺受まで設けられていた。

野田先生の下調べに基づいて、長門市西端の島・下関市豊北町角島へ出掛けた。平成12年春の開通で延長1780メートル、無料であり快適

なドライブとなった。島には角島灯台があり、目に付いた駐車場で、古代祭祀跡について問い合わせたら、江戸時代に北前船が遭難して、その乗船客を弔ったとかの話だった。海岸に出て見渡したら、直ぐに大きな鳥居が目についた。鳥居は明治8年建立とある。祭祀跡は長方形だが、筆者の足で長い面は35歩、短い面は10歩である。海側の長い面の中央に入り口がある。鳥居の反対側は2つに分けられ、左側は「龍神」を祀っている。右側には何も置いていないが、丸石が目につく。この石の囲みの中に入って祭祀を行ったと考えられる。

誰が何時作ったのか。素朴な石積から考えて、古代に海洋民が造ったことは間違いない。南方から日本にきた民族が最初にたどり着いた場所ではないか。帰宅後、「支援協議会」副会長の林博章先生に話したら、先生は10年も前に既に調査していた。そして「海洋民が最初に到着した所とまずは考えたが、若しかしたら阿波忌部が日本海側へ進出して行く途中で造ったものかも知れない」という。解明できたら途轍もない観光資源となるのに、どうして看板の1枚も無いのだろうか。

筆者が気付いたのは美馬市穴吹町口山・白人神社前の山頂にある「五社三門」遺跡を見ていたから。この案内板には「江戸時代に造られた」という変な説明があった。白人神社は台風11号による強風で杉の木が倒れ鳥居が崩壊している。この強風で「五社三門」への石段も倒木で塞がれてしまった。機会があれば自分の目で確かめたい。

さて、今回の山口県長門市行は鳴門に集合、岡部晃司さんの運転で出掛けたが、山陽自動車道経由で往復97.2キロだった。途中、福山から下松まで1時間余り運転させてもらった。常日頃、時速100キロで運転する事などないので、気分爽快だった。しかし、途中で最高時速130キロもあったらしい。

ナポレオンの村で再会

7月19日からTBS日曜



穴吹の五社三門神社への石段
(松島清照氏提供)



テレビドラマ化された高野誠浄さん
(後列右から2人目)



藤崎会長を訪問(藤崎電機で)



藤原純友の碑周辺の清掃



戸島へ移りバーベキュー



りこうなツバメの子育て

藤崎電機が竹発電

8月7日、東京からつるぎ

劇場で「ナポレオンの村」が放映されている。茶店友達から週刊現代2015年8・8日号を買った。その特集に「ナポレオン村」が取り上げられ、そのモデルは能登半島の付け根にある石川県・羽咋市役所勤務の高野誠浄氏だった。彼は「ローマ法王に米を食べさせた男」の著者で、ナサから宇宙飛行船をタダ同然で借り受けて、宇宙科学博物館「コスモアイル羽咋」を作り上げた。伊吹山の嶋野夫妻の案内で3年前の8月17日、羽咋市を訪れ高野氏と懇談した。

この時、林博章先生が剣山系の美しい集落の風景や祭りの写真を高野氏に見てもらった。彼が「世界農業遺産間違いなし」と太鼓判を押してくれ、その後の励みになった。人の出会いの不思議を感じている。

町一字に移住した町田慎介さんの依頼で、旧知の阿南市辰巳町、藤崎電機・藤崎稔会長を訪ねた。町田さんはつるぎ町で小規模水力発電を手掛けており、発電量を増やすうえでの相談だった。藤崎電機(藤崎耕治社長)は山陽小野田市の企業団地へ、竹を主な燃料とするバイオマス発電所を建設する。藤崎会長が同市の出身であることや全国第4位の竹林面積を持つことなどから、7月同市と進出の調印を交わした。

竹は2日に揃え、4つに割り水に浸けて灰汁抜きをして納入してもらう。一人で1日50本は作業ができる。所有者には1本20円、作業者には1本280円をそれぞれ支払う。竹林の跡地利用などでメリットがあり、これだと人を呼び込めるのではないかと見ている。会長とは何十年も前から知り合いで、元気に頑

宇和海の日振島再訪

張っておられたので、嬉しくなった。

8月11日、愛工房(宇和島市吉田町)の招きで宇和島から渡船に乗り込み、宇和海の日振島へ行った。宇和島口ターミナルの皆さんと愛工房の新社員たちで、80坪の山上にある藤原純友の碑周辺を清掃する事。山登りに弱い筆者と巨体の愛工房丁井俊社長がビリを競いながら汗びっしょりで何とかたどり着いた。

藤原純友は10世紀、京より海賊退治に派遣されたが、彼らの頭領となり大宰府を襲うなど暴れまくった。その痛快な人柄に惚れたのが宇和島市吉田町出身の海運王山下亀三郎(1867-1944)。彼が京に向けて藤原純友の碑を建立している。清掃の後、公民館で筆者が藤原純友につ

長尾勝男氏が死去

いて「彼は瀬戸内の制海権と東南アジアへの貿易を目論んでいたのではないか」と講演した。その後、近くの戸島へ移動し、掴み取りしたタコなどのバーベキューとビールを堪能した。

7月26日、旧(株)長尾鉄工所社長、会長で長尾産業社長を務めた長尾勝男氏(78)が死去した。筆者と同年齢だったが、糖尿病を患い、長年会えなかったことが残念だ。

車庫にツバメの巣

7月中旬、車庫の側壁にツバメが巣を作り10日ほどの間に4羽の雛を育てて巣立った。昨年、車の真上に巣を作ったのでシャッターを閉めて阻止した。今年は側面で糞が落ちて邪魔にならない場所を選んだのだが、そんな知恵があるものだろうか。